

岸田首相、6月解散で延命図るか 裏金議員処分も党内に不満残る

開催日：2024年4月12日 開催場所：ホテルオークラレストラン

中部財界フォーラム社主催の異業種交流会「東海財界倶楽部 第58回 例会」は4月12日、名古屋市東区のホテルオークラレストランで開催。この日の講師は本誌「政界ワイドビュー」を連載中の星野典久・朝日新聞政治部次長。星野氏は「今後の政局展望」をテーマに裏金問題で揺れる自民党の党内事情、党総裁として裏金議員を処分した岸田文雄首相の支持率浮揚戦略などを分析、6月の衆議院解散もあり得るとの見方を示した。



星野 典久氏

星野氏は安倍晋三、菅義偉、岸田の3首相を官邸キャップとして取材。その政界通が今後の政局をどう読み解くのか、約30人の出席者は永田町裏話を熱心に聞き入っていた。星野氏はまず、裏金議員の処分について塩谷立、世耕弘成両氏を離党勧告としながら2700万円余の不記載があった萩生田光一氏を実害のない役職辞任勧告としたのは「萩生田氏が安倍元首相の弟分で、周辺に若手も集まる。敵に回せず、温情措置になった」との見方を紹介。岸田首相自身と、次期衆院選不出馬を表明した二階俊博氏は処分なしで、「実態が解明されず、処分の線引きも不明で、残ったのは党内と国民の不満」とした。

また、島根、長崎、東京の衆院3補選の結果次第では岸田首相の求心力は弱まり、菅政権末期に似て、岸田おろしが始まるとして、岸田首相は解散して延命を図る可能性がある」と指摘。「訪米の外交成果をアピール、政治資金規正法改正、春闘の賃上げ効果を強調。岸田首相は図太い面があり、上げ潮ムードと捉えて6月にも解散、9月の総裁選を乗り切るシナリオを考えているのでは」と話す。ネックは党の顔刷新への党内世論と公明党が政治の信頼回復が確認で

きない中での解散を否定していること。次期首相候補として「石破さん（茂元幹事長）の国民の人気は高いが、茂木敏充幹事長、上川陽子外相、林芳正官房長官、高市早苗経済安全保障担当大臣らの名前も挙がっている。岸田派所属議員続投は敬遠され、麻生派だけでは決められない事態も。菅、二階両氏の動向も注意が必要」と述べた。

岸田首相は党内に敵がおらず、野党の支持率も低迷しているが、星野氏は「一度失った信頼を取り戻すのは至難。2009年衆院選の自民大惨敗再現も。最大の危機は受け皿となる野党不在で投票率が低下、政党政治への信頼が失墜し、極端な言説を伴うポピュリズムが台頭しかねないこと。次期衆院選は特に注目していきたい」と結んだ。

このあと懇親会に移り、日本公認会計士会東海会の岩田礼司副会長（写真右下）の発声で乾杯、親交を深めた。

